

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点 (合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
①農業研究部 (計42件)						
1651	農業研究部	<p>【茶の生産技術研修を実施しました】 (2024. 2. 6発信)</p> <p>ドリンク茶生産法人の生産技術向上を目的とした研修を大手緑茶飲料メーカー、中部振興局とともに実施し、臼杵市の生産者5名が参加しました。研修では、幼木圃の仕立て方法や病虫害防除について情報交換を行うとともに、茶葉の外観や味、香り等から製茶加工の改善点を判断する技術について説明がありました。生産者は研修を通じ今春に向けた品質向上への意欲を高めていました。今後も関係機関と連携して茶産地の育成に取り組めます。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶葉チーム	0974-28-2082	2024.2.29
1648	農業研究部	<p>【R6年作に向けて、ピーマンのフィルムを展張しました】 (2024. 1. 25発信)</p> <p>ピーマンでは夏期の高温による生理障害果の発生が問題となっており、対策が求められています。そこで、R6年度から、高温対策として、ハウスの被覆フィルム比較試験を行います。比較するフィルムは「赤外線を抑えてハウス内の温度上昇を抑制する遮熱フィルム」と、「太陽光を行き渡らせて植物体の急な温度変化を和らげる散乱光フィルム」で、慣行のフィルムとのハウス内環境や収量、生理障害果の発生の違いについて調査します。</p>	 左：P Oフィルム（慣行） 中：散乱光フィルム 右：遮熱フィルム	農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2024.2.29
1647	農業研究部	<p>【夏秋トマトでの外気導入を検討しています。】 (2024. 1. 25発信)</p> <p>県内トマト産地では、近年の気候変動に伴う高温・高日射等による生育・着果不良や障害果の発生が問題になっています。そこでハウス内環境の改善による収量向上を図るため、送風機等による積極的外気導入試験を実施した結果、ハウス内気温や植物体表面温度が低下しました。来年度は現地試験を3カ所で行う予定です。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2024.2.29
1644	農業研究部	<p>【イチゴの果実硬度調査を実施しています】 (2023. 12. 27発信)</p> <p>イチゴの日持ち性や輸送性を向上させるためには果実の硬さが重要です。果実が硬いイチゴ品種の育成を目的として、今年度は県産業科学技術センターの「クリープメーター」を使用して果実硬度のデータを収集しています。今後はこのデータをもとに果実硬度に関する遺伝子を特定し、新品種の育成に活用する予定です。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2024.1.31
1643	農業研究部	<p>【空から確認：試験研究に役立つドローン操作研修を実施】 (2023. 12. 27発信)</p> <p>12月20日、農業研究部職員に向けたドローン操作研修を実施しました。ドローンを試験研究に活用することで、試験研究の経過を空撮画像として残すだけでなく、広範囲の作物の被覆率増加の推移を把握できるなど様々な調査が可能になります。本研修では、ドローン操作に精通した職員が講師となり、ドローンの安全運転の徹底と、試験研究での運用に向けた操作方法を実習形式で学びました。</p>	 研修を受ける参加者の様子	農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2024.1.31
1627	農業研究部	<p>【現地で夏秋トマトの土壌水分量の実態調査を行っています】 (2023. 12. 11発信)</p> <p>県内トマト産地では、近年の気候変動に伴う高温・高日射等による生育・着果不良や障害果の発生が問題になっています。そこで適正な土壌水分量を解明するため、現地圃場の土壌水分実態調査を竹田市4箇所で行っています。今後、土壌水分量と収量等の関係性を分析していく予定です。</p>	 土壌水分量の計測(左)と土壌水分センサー(右)	農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2023.12.31
1622	農業研究部	<p>【土壌調査研修会】 (2023. 12. 11発信)</p> <p>豊後高田市では、水田畑地化による白ねぎ産地の拡大等が進められています。11月16日に豊後高田市森地区の圃場5カ所において、土壌・環境チームの指導のもと県北部振興局職員を対象に研修会が開催されました。当日はアースオーガ（穴掘り機）で削孔した土壌断面を調査して、適切な土壌改良や排水対策を判断する方法について技術習得を図りました。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2023.12.31

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点

(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1618	農業研究部	<p>【ピーマンの生産者に試験研究を紹介しました】 (2023. 11. 27発信)</p> <p>11月14日、臼杵市野津町ピーマン生産者など約28名が当部に視察に訪れました。始めに、ピーマンの台木が収量や生理障害の発生に及ぼす影響や品種の特性を紹介し、意見交換を行いました。次に、カンショにおける「あまはづき」等の品種選定試験等について、試食を交えて紹介しました。また生産者への注意喚起として、県内で新たに確認された「トマトキバガ」についてトマト果実を例に被害の見分け方等を指導しました。</p>		農業研究部 企画指導担当	0974-22-0671	2023.12.31
1614	農業研究部	<p>【イチゴ「ベリーツ」のCO₂局所施用試験を開始しました】 (2023. 11. 22発信)</p> <p>県オリジナルイチゴ「ベリーツ」の収量と品質を向上させる技術にCO₂施用があります。ハウス内全体へCO₂を施用する従来の方法では効率が悪いうえ、燃料費が高くなるのが課題です。そのため、株近くに施用することで無駄なくCO₂が植物に利用されることが期待できる局所施用技術の検証を開始しました。今後、収量や品質向上、燃料費削減効果を調査します。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2023.12.31
1608	農業研究部	<p>【チャトゲコナジラミの天敵、シルベストリコバチの定着状況を調べました】 (2023. 11. 9発信)</p> <p>茶の害虫チャトゲコナジラミは現在県内に広く分布し、その分泌物がすす病を誘発する等の被害が確認されています。この幼虫に寄生して密度を減らす効果のあるシルベストリコバチ(天敵)について、茶園での天敵防除技術の可能性を検討するために、どの程度自然定着しているかを調べました。調査の結果、東部、中部、豊肥、北部の茶園で寄生が確認されました。今後も発生動向を注視していきます。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2023.11.30
1607	農業研究部	<p>【白ねぎの高温対策について】 (2023. 11. 7発信)</p> <p>10~11月出荷の白ねぎは高単価で販売されますが、これら夏越し作型では夏期高温等による生育不良が問題となっています。そこで、夏越し作型の安定生産のために(1)大苗育苗技術、(2)緩効性肥料、(3)品種を組み合わせた夏期高温総合対策技術の試験に取り組んでいます。収穫期を迎えており、今後、収量や品質調査を行い、効果を検証します。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2023.11.30
1606	農業研究部	<p>【白ねぎにおけるリン酸肥料の効率的な施肥方法について】 (2023. 11. 7発信)</p> <p>化学肥料が高騰する中、肥料コストの削減は白ねぎ生産者にとって大きな課題となっています。そこで、収量を確保しつつリン酸施用量を削減するための効率的な施肥方法を検討しています。5月に定植した各試験区の白ねぎは、現在収穫期を迎えており、収量や品質等を調査しています。</p> <p>〔試験区…定植前の苗にリン酸を灌注した区、リン酸後半施肥区、リン酸施肥量5割減区、対照区〕</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2023.11.30
1594	農業研究部	<p>【かんしょ早生品種「あまはづき」の品種比較】 (2023. 10. 19発信)</p> <p>貯蔵なしでねっとりとした食感と高い糖度が得られるかんしょ早生品種「あまはづき」(農研機構育成)について、本県での適応性等を評価するために、収穫調査および糖度調査を実施しました。今後、「べにはるか」と組み合わせで出荷期間拡大に繋がる栽培体系を検討します。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2023.11.30
1593	農業研究部	<p>【べにはるかを早期定植したときの品質確保に向けた調査を実施しました】 (2023. 10. 19発信)</p> <p>べにはるかを早期定植すると「条溝」と呼ばれる筋状の溝が多く発生し、外観や品質の低下に繋がります。そこで、定植後日数および株間が条溝発生に与える影響を調査しています。また、かんしょ生産者に御協力をいただき現地での発生実態調査をしました。</p>		農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2023.11.30
1588	農業研究部	<p>【令和5年度土壌肥料研究会を大分県で開催しました】 (2023. 10. 12発信)</p> <p>10月3、4日、九州沖縄地域の土壌肥料分野の試験研究を推進するため、国や九州各県研究機関、企業等参集のもと、土壌肥料研究会が本県で開催されました。「スマート農業」をテーマに、研究状況の発表や現地に向向いの議論を実施し、今後の課題や展望について意見交換を行いました。当チームからは、土壌水分測定法の開発やドローン空撮画像を活用した白ねぎ生育状況の見える化の研究状況を発表しました。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2023.10.31

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点

(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1584	農業研究部	【イチゴのハウスに遮熱ネット（青天張）を張りました】 (2023. 10. 2発信) イチゴは、9月下旬に苗を定植しますが、その後に高温に遭遇すると花芽の生育が抑制され、小玉化等の原因になります。そのため10月下旬までハウスの天井ビニルを除去し、外気にあてますが、労力がかかるため、天井ビニルを展張したままの経営体が増えています。そこで、温度上昇の原因となる赤外線を遮断する遮熱ネットを張り、生育や収量への影響を明らかにする試験を行います。		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2023.10.31
1576	農業研究部	【白ねぎ圃場でドローン研修会を開催しました】 (2023. 9. 20発信) 白ねぎ等露地野菜の大規模栽培では、生育状況の確認に多大な労力を要します。省力化にむけ、当チームではドローン空撮画像による白ねぎの生育診断技術を開発しています。9月12日、豊後大野市大野町にて普及指導員約20人を対象に、白ねぎ生育診断ソフト(大分工業高等専門学校との共同研究で開発)を使った診断の実演やドローン撮影技術の指導を行いました。今後も現地でのドローン活用を支援していきます。		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2023.10.31
1574	農業研究部	【土壌断面調査の研修会を行いました】 (2023. 9. 13発信) 杵築市と日出町においては、新たな果樹産地の拡大が計画されています。8月28日に東部振興局主催で、適切な土壌改良や排水対策を判断するための研修会が開催され、生産者、市町職員及び県職員等約20人が参加しました。当チームからは土壌断面調査方法について、実際に果樹の新植を計画している圃場で、具体的な手法を実演指導しました。		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2023.9.30
1573	農業研究部	【かんしょ生育画像取得のためドローン空撮技術を指導しました】 (2023. 9. 13発信) 土壌・環境チームではドローンで空撮した画像による白ねぎ等の生育診断技術の開発に取り組んでいます。一方、普及現場でもドローンの導入が始まり、東部振興局ではかんしょの空撮画像を用いて、葉色から生育不良範囲を特定する方法を検証しています。そこで、当チームは安全にかんしょの空撮画像を取得できるよう、ドローン撮影技術等を指導しました。今後も普及現場でのドローンの活用を支援していきます。		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2023.9.30
1572	農業研究部	【いちごIPM技術研修会を開催しました】 (2023. 9. 12発信) 8月31日に大分市でいちごの総合的病害虫・雑草管理(IPM)にかかわる研修会を県が開催し、生産者やJAおいた職員、県職員等約50名が出席しました。当チームからは、昨年各地域で行ったIPM実証圃の事例を紹介しながら、天敵を活用したアブラムシ、アザミウマ、ハダニの防除体系について説明を行いました。今後も連携してIPM技術の取り組みを支援していきます。		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2023.9.30
1571	農業研究部	【総合的病害虫・雑草管理(IPM)を紹介し、病害の診断方法を研修しました】 (2023. 9. 8発信) 9月6日に、県主催の専門技術研修(病害虫)2日目が開催され、採用3年目の県の普及職員や農協の若手営農指導員7名を対象に、IPMや病害の診断方法を研修しました。IPMの考え方や根拠法令、最近の研究事例等を紹介し、菌泥及び病原菌の観察方法や、RIPA検出紙を使ったウイルスの診断方法の実習を行いました。 ※RIPA検出紙：特定のウイルスに反応する抗体が染みこんだ紙。		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2023.9.30
1569	農業研究部	【害虫の診断方法を研修しました】 (2023. 9. 6発信) 9月5日に、県主催の専門技術研修(病害虫)が当研究部で開催され、採用2年目の県の普及職員や農協の若手営農指導員8名を対象に、害虫の診断方法を研修しました。予察田や圃場内圃場での観察方法、実体顕微鏡による同定方法及びベルマン法による線虫の診断方法を指導し、予察灯によるウンカ類等の水稲害虫の発生調査や、フェロモントラップによるトマトキバガの侵入調査を紹介しました。		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2023.9.30

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点

(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1567	農業研究部	<p>【スマート農業研修会にてドローンによる生育診断技術を紹介しました】 (2023. 9. 6発信)</p> <p>大野川上流地域では、大規模な露地野菜栽培が行われていますが、労働力不足解消に向けた効率的な営農が求められています。そこで、8月29日に大野川上流開発事業事務所主催のスマート農業研修会が開催され、約40名が参加しました。当チームからは、栽培管理の省力化技術として、ドローン空撮画像を活用した白ねぎの生育診断技術およびキャベツの結球数計測技術を紹介しました。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2023.9.30
1566	農業研究部	<p>【中津市水田経営若手農業者研修会で土づくりや排水対策の紹介をしました】 (2023. 9. 6発信)</p> <p>8月30日に北部振興局主催の中津市水田経営若手農業者研修会が開催され、中津市内の水田農業経営に携わる若手農業者約10名が参加しました。当チームからは、中津市の地質的特徴や堆肥を中心とした土づくりの方法、水稻と麦を栽培する際の排水対策や留意点など紹介しました。研修会後には希望者による個別相談も行われました。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2023.9.30
1565	農業研究部	<p>【イチゴ「ベリーツ」の花芽分化安定化のための株冷試験を開始しました】 (2023. 9. 6発信)</p> <p>県オリジナルイチゴ「ベリーツ」の年内収量を確保するためには、9月下旬に均一に花芽分化した苗を定植することが重要です。そのためには、育苗後半（8月）に一定の低温に遭遇する必要がありますが、近年は高温の影響により、花芽分化がバラつく傾向にあります。そこで、8月末から苗を冷蔵庫に入れ、短期間の低温処理（株冷）を行うことで、花芽分化の均一化につながるかを検証します。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2023.9.30
1564	農業研究部	<p>【土壌肥料・病害虫の研究状況を紹介します】 (2023. 8. 30発信)</p> <p>SDGsへの関心が高まる中、化学肥料や化学合成農薬の使用量を低減する技術等が求められています。そこで、大分県肥料植物防疫協会と県主催の「土壌肥料・病害虫に関する研修会」が当研究部で開催され、約30名が参加しました。当研究部からは、乾炉スラッグの活用試験やオオバにおけるアザミウマ類防除試験の成果、場内圃場で研究中の土壌水分・ECセンサーやトマト害虫の天敵昆虫（タバコカスミカメ）を紹介しました。</p>		農業研究部 企画指導担当	0974-22-0671	2023.9.30
1563	農業研究部	<p>【石炭灰（クリンカアッシュ）を投入しました】 (2023. 8. 30発信)</p> <p>火力発電の際に発生する石炭灰（クリンカアッシュ）は、主にセメント原材料として利用されていますが、保水性、通気性に優れた土壌改良材として、農業分野での活用が期待されています。そこで、本年度から、県産イチゴ品種ベリーツ（大分6号）栽培高設ベンチに投入し、収量性と培地水分の特性等を明らかにする試験を行います。</p>		農業研究部 果菜類チーム	0974-28-2081	2023.9.30
1566	農業研究部	<p>【汚泥由来の液肥製造技術に関する意見交換と施設の見学を行いました】（2023. 8. 9発信）</p> <p>8月2日、福岡県築上町で九州大学を中心とした「日田市下水汚泥資源活用促進コンソーシアム」の第1回推進会議が開催されました。会議では、下水汚泥資源から肥料成分を取り出して液肥を製造する技術に関する意見交換が行われ、築上町にある有機液肥製造施設を見学しました。今後、当チームで汚泥由来の液肥を使った栽培実証を行います。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2023.8.31
1555	農業研究部	<p>【オオバのアザミウマ類防除対策について紹介しました】 (2023. 8. 9発信)</p> <p>7月28日にJA鹿児島県会館で第1回九州病害虫防除協議会技術研修会が開催され、九州各県研究機関及び農業メーカー関係者ら83名が出席しました。大分県は、オオバで問題となっているアザミウマ類の防除対策について発表し、天敵農薬（スワルスキーカブリダニ剤）を用いた防除効果や薬剤感受性検定の結果を紹介しました。</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2023.8.31
1554	農業研究部	<p>【ベリーツ勉強会でイチゴの肥培管理技術を紹介しました】 (2023. 8. 9発信)</p> <p>7月27日に中部振興局主催のベリーツ勉強会が開催され、由布市内のイチゴ生産者など約15名が参加し、高設栽培を中心とした肥培管理技術について情報交換を行いました。当チームからは、緩効性肥料や液肥の適正な使用方法、リアルタイム診断を取り入れた施肥設計の方法などについて紹介し、研修会後には希望者による個別相談も行いました。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2023.8.31

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点

(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1531	農業研究部	<p>【マルチコプターを活用したキャベツの生育診断技術の現地試験を開始】 (2023. 6. 23発信)</p> <p>大規模な露地野菜栽培では、生育状況の確認にかかる労力が不足する傾向が見られます。そこで、当チームではマルチコプター（ドローン）を活用した省力的な生育診断技術を開発しています。6月14日、竹田市にて加工用キャベツ圃場の空撮と収穫調査を行いました。今後は栽培中にマルチコプターで空撮した画像を使い、結球数の計測や収穫適期、収量予測の技術開発を進めます。</p>	 <p>空撮の様子と空撮画像</p>	農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2023.7.31
1530	農業研究部	<p>【いちごIPM実証圃実績検討会が開催されました】 (2023. 6. 23発信)</p> <p>環境にやさしい栽培体系の構築・普及のため、いちごでは天敵製剤等IPM技術※を活用した実証圃を各地域に設置しています。6月8日の実績検討会では、関係者17名が出席し、技術の成果や課題等を検討し、当チームからは試験方法に対する助言を行いました。今後も連携してIPM技術の取り組みを支援していきます。</p> <p>※ IPM技術：耕種的・生物的・物理的な方法を組み合わせた総合防除技術。化学農薬が効かない害虫の防除対策や人や環境へのリスクを抑える防除手段として有効。</p>	 <p>いちごIPM実証圃 実績検討会</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2023.7.31
1529	農業研究部	<p>【かんしょ外観品質に影響を与える土壌要因の解明のため水分センサーを設置】 (2023. 6. 23発信)</p> <p>畑地化水田などでかんしょを栽培すると、イモの曲がりや肌荒れなど外観上の問題が見られることがあります。そこで、外観品質に影響を与える土壌要因（水分含量、硬度、化学性など）を解明するために県内30箇所の圃場で調査を行います。6月中に対象となる圃場に土壌水分センサーを設置し、収穫までの水分データを収集していく予定です。</p>		農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2023.7.31
1528	農業研究部	<p>【白ネギのドローン防除について意見交換しました】 (2023. 6. 23発信)</p> <p>6月7日、豊後大野市大野町にて「ドローンビジネスプラットフォーム※」を活用した白ネギのドローン防除について意見交換会が開催されました。事業者、生産者、県から約10名が参加し、露地野菜での活用・普及のため、機体性能や薬剤の選定などについて意見を交わしました。また、白ネギの選果場を見学し、商品価値を損なわない防除への理解を深めました。</p> <p>※ドローン事業者と利用者をつなげる県が支援するマッチングの仕組み</p>		農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2023.7.31
1511	農業研究部	<p>【マルチコプターを活用した白ねぎの生育診断技術の試験を開始】 (2023. 5. 12発信)</p> <p>県内の露地野菜栽培では、野菜の生育状況の確認に多大な労力がかかっています。そこで、当チームではマルチコプター（ドローン）を活用した省力的な生育診断技術を開発しています。試験場内のほ場に白ねぎを定植（5月9日）し、今後は栽培中にマルチコプターで空撮した画像から収穫適期や収量を予測する技術を検討します。</p>	 <p>試験用の白ねぎを定植</p>	農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2023.05.31
1510	農業研究部	<p>【サトイモの種苗生産技術の試験を実施中】 (2023. 5. 10発信)</p> <p>県内のサトイモ栽培では、種イモが長年更新されていない等の理由から収量の低下が問題となっています。また近年、イモに条溝と呼ばれる症状が発生し、品質低下が問題となっています。当チームでは、種イモを分割して効率的に生産する育苗技術の検討に取り組んでいます。分割する種イモ1片あたりの重さ、育苗期間、追肥の有無等の違いによる影響を明らかにするため、今後は定植後の生育状況を調査します。</p>	 <p>サトイモ定植(5月2日)</p>	農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2023.05.31
1509	農業研究部	<p>【カンショの栽培試験を開始しました】 (2023. 5. 10発信)</p> <p>当チームではカンショの効率的な苗の増殖技術、食味や加工性に優れる品種の選定等に取り組んでいます。また近年、イモに条溝と呼ばれる症状が発生し、品質低下が問題となっています。現在、場内ほ場で慣行よりも早期に定植を行い、収穫時期が品質や収量に与える影響を明らかにします。</p>	 <p>カンショ定植(4月27日)</p>	農業研究部 葉根菜類・茶業チーム	0974-28-2082	2023.05.31

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点

(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1508	農業研究部	<p>【土耕小ネギの栽培管理技術について講演しました】 (2023. 5. 2発信)</p> <p>東部振興局主催の土耕小ネギ栽培講習会が開催され、大分味一ねぎ生産部会員など約30名が参加し、栽培技術に関する情報交換を行いました。土壌・環境チームからは、開発した土壌水分の測定手法に関する最新情報や、かん水管理及び土壌診断結果に基づいた施肥管理などについて紹介しました。</p>	 <p>土耕小ネギ栽培講習会</p>	農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2023.5.31
1505	農業研究部	<p>【白ネギ大苗を利用した栽培試験を実施中】 (2023. 5. 1発信)</p> <p>当チームでは白ネギ栽培で慣行苗よりもサイズが大きく、生育や収量性が優れる大苗を育成する技術の研究に取り組んでいます。現在、試験場内ハウスで大苗を育苗中であり、この大苗を用いた夏期の高温対策技術試験（品種、肥料等）を実施します。</p>	 <p>白ネギ大苗の生育調査</p>	農業研究部 葉根菜類・茶葉チーム	0974-28-2082	2023.5.31
1503	農業研究部	<p>【天敵を利用したトマトの害虫防除試験を開始しました】 (2023. 4. 26発信)</p> <p>当チームでは、夏秋トマト栽培で問題となるコナジラミ類(害虫)の対策として、天敵昆虫であるタバコカスミカメを利用した防除手法の研究に取り組んでいます。試験場内ハウスにトマトの定植を行い、防除試験を開始しました。今後はタバコカスミカメのコナジラミ類への防除効果を調査し、適切な防除手法を検討していきます。</p>	 <p>トマトの定植(4月24日)</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2023.5.31
1501	農業研究部	<p>【イチゴ講習会で灰色かび病対策を紹介しました】 (2023. 4. 14発信)</p> <p>4月6日にJAおいたと南部振興局共催のイチゴ講習会において、生産者と病害虫対策に関する情報交換を行いました。当チームからは、灰色かび病の発生しやすい条件や防除薬剤等を紹介しました。また、場内ハウス内で試験中の、送風による湿度制御での本病抑制効果について試験結果・状況を報告しました。</p>	 <p>イチゴ講習会</p>	農業研究部 病害虫対策チーム	0974-28-2078	2023.4.30
1497	農業研究部	<p>【土壌ECセンサを用いたピーマンの施肥管理試験】 (2023. 4. 7発信)</p> <p>当チームは野菜の収量・品質を最大化するため、栽培中の土壌EC値(肥料濃度の指標)をセンサを用いて正確に把握し、リアルタイムな施肥管理をする技術の研究に取り組んでいます。4月3日に試験場内のハウスでピーマンの定植を行いました。今後はリアルタイムに土壌のEC値を確認しながら追肥量の調整を行い、数値に基づいた施肥管理の方法を検討します。</p>	 <p>試験用のピーマンを定植</p>	農業研究部 土壌・環境チーム	0974-28-2072	2023.4.30

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点 (合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
②水田農業グループ (計7件)						
1663	水田農業グループ	<p>【水稻新品種「なつほのか」の技術指導を行いました！】 (2024. 3. 6発信)</p> <p>当グループが収量や耐暑性等の特長を評価した「なつほのか」は、来年度から奨励品種となります。2月16日に県振興局の普及指導員等20名を対象に、収量・品質を向上させるための研修会を当グループで開催しました。研修会では試験成績を元に、施肥方法や収穫適期等の栽培ポイントについて説明しました。令和6年度「なつほのか」は栽培面積 3000haを目指しています。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 または 水田農業チーム	0978-37-1160	2024.3.31
1613	水田農業グループ	<p>【米の食味官能試験を実施しています！】 (2023. 11. 16発信)</p> <p>水稻の品種選定にあたっては、収量、品質に加え、食味が重要な評価指標として位置づけられています。当グループでは、本年収穫された様々な品種を用い、食味官能試験を実施しています。「外観」「香り」「味」「粘り」「硬さ」「総合」の6項目について当グループ研究員等の評価者が採点し、総合点により良食味米の選定を行っています。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 または 水田農業チーム	0978-37-1160	2023.12.31
1558	水田農業グループ	<p>【大豆原種の播種をしました！】 (2023. 8. 9発信)</p> <p>原種とは、大豆採種農家（食用大豆の種を生産する）に供給する種子のことです。播種作業は、播種精度の向上と省力化を図るため、ハンドルに自動操舵装置を取り付けたトラクターで行いました。今後は、随時異形株除去や病害虫防除を実施し、高品質な原種生産を行います。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 または 水田農業チーム	0978-37-1160	2023.8.31
1547	水田農業グループ	<p>【品種選定試験用の大豆を播種しました】 (2023. 7. 25発信)</p> <p>当グループでは、県の大豆主力品種「フクユタカ」に代わる新品種の選定に向けた試験を行っています。本年は昨年までに絞り込んだ5品種・系統について継続検討し、有望品種を選定する予定です。今後は栽培性や収量性について調査を行いデータを収集していきます。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 または 水田農業チーム	0978-37-1160	2023.8.31
1536	水田農業グループ	<p>【作柄判定試験用の水稻を移植しました】 (2023. 6. 27発信)</p> <p>本年の作柄の基礎資料とするため、県の主力品種である「つや姫」「なつほのか」「ヒノヒカリ」を毎年決められた日に移植し、定期的に生育調査を行っています。調査結果は、当グループのホームページにて、7月上・中・下旬、8月上・下旬、10月下旬、1月下旬に公開しています。 (https://www.pref.oita.jp/soshiki/15084/)</p>		水田農業グループ 企画指導担当 または 水田農業チーム	0978-37-1160	2023.7.31
1502	水田農業グループ	<p>【麦類原種の雑穂抜きを行っています】 (2023. 4. 20発信)</p> <p>採種農家に供給する麦類の種子（原種）が出穂期を迎え、雑穂抜きを行っています。雑穂抜きとは、異種や変異種の混入がない均一な原種を生産するために、生育が異なる個体を除去する作業で、収穫までに最低3回実施します。取り残しが無いよう、一畦ずつチェックします。</p>	 <p>雑穂抜きの様子</p>	水田農業グループ 企画指導担当 または 水田農業チーム	0978-37-1160	2023.5.31
1499	水田農業グループ	<p>【ドローンを活用した可変施肥技術の実証を行いました！】 (2023. 4. 14発信)</p> <p>当グループでは、高タンパク質含有率が求められている醤油・パン用小麦「はるみずき」を生産するため、実肥の可変散布試験を行っています。</p> <p>肥料の散布量を増減できるドローンを活用し、生育の良いところには少なく、悪いところには多く施肥を行う試験を現地圃場で行いました。今後は、散布圃場の収量・タンパク質含有率を調査し、本技術の検証を行います。</p>		水田農業グループ 企画指導担当 または 水田農業チーム	0978-37-1160	2023.4.30

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点 (合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
<p>③果樹グループ (計19件)</p>						
1670	果樹グループ	<p>【高収量ハウスミカン園の樹形解析で論文賞を受賞】 (2024. 3. 25発信)</p> <p>温州ミカンチームの矢野主幹研究員が「2023年日本農業気象学会論文賞」を受賞しました。今回の受賞は、様々な仕立てのハウスミカンを15年間にわたって調査して、省力化と高品質果実安定生産の両立を求める生産現場ニーズに対する最善策を提供したことや、更なる仕立て方法の改良に関する基礎知見を提供したことなどが高く評価されたものです。</p>	 <p>受賞した矢野主幹研究員(右)と共著者の九州大学 武津准教授(左)</p>	果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2024.4.30
1662	果樹グループ	<p>【ナン授粉用花粉確保に向けた取組み】 (2024. 3. 1発信)</p> <p>中国での火傷病発生に伴い中国産ナン花粉の輸入が停止されています。そのため県内農家が使用する授粉用花粉を緊急的に確保する必要があります。そこで、落葉果樹チームでは1月末からナン剪定枝をハウス内に随時搬入し加温して開花させ、授粉に必要な320gのナン花粉を確保する取組みを行っています。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2024.3.31
1660	果樹グループ	<p>【カンキツ類のせん定研修会が開催されました】 (2024. 2. 28発信)</p> <p>2月16日、県地域農業振興課主催のせん定研修会が果樹グループで開催され、農協の営農指導員7名、市職員3名、県振興局の果樹担当普及指導員7名が受講しました。広域普及指導員と温州ミカンチーム研究員から講義を受けた後、圃場で「おおいた早生」「田口早生」「はるみ」のせん定実習に取り組みました。</p>		果樹グループ 企画指導担当	0978-72-0407	2024.3.31
1655	果樹グループ	<p>【ハウスミカン産地の課題解決にむけた取組み】 (2024. 2. 7発信)</p> <p>温州ミカンチームでは、生産現場の課題解決にむけ生産者との情報交換や現地調査を積極的に行なっています。今年度は、燃油高騰がハウスミカン経営を圧迫している問題を解決するため、慣行より低い温度設定で管理する省エネルギー栽培の現地実証を実施し、生産者に対する報告を1月26日と2月1日に行ないました。今後も、生産者と連携しながら課題解決に取り組んでいきます。</p>		果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2024.2.29
1634	果樹グループ	<p>【地元の園児が温州みかんの収穫を体験しました】 (2023. 12. 18発信)</p> <p>12月14日、国東市の南部子ども園の園児21名と園の関係者5名が当グループに来所しました。クイズを出しながら美味しいみかんの選び方やハサミの使い方の説明を行った後、園児は実際に温州みかんの収穫を体験しました。今回の体験をきっかけに、果物に興味を持って頂けることを期待しています。</p>		果樹グループ 企画指導担当	0978-72-0407	2024.1.31
1624	果樹グループ	<p>【デコ330の樹をビニールで被覆しました】 (2023. 12. 11発信)</p> <p>デコ330(さんさんまる)は、開花から収穫まで約330日間かけ、樹上で完熟させる不知火(カンキツ類)です。長期間にわたって栽培し、樹上で完熟させることで、糖度が高く酸度が適正な果実になりますが、果皮が傷みやすいため、果実を雨で濡らさないようビニール被覆を行いました。さらなる高品質化と樹勢維持を目的に、当チームではシートマルチと点滴灌水(通称:マルドリ)栽培試験を行っています。</p>		果樹グループ カボス・中晩柑チーム	0972-82-2837	2023.12.31
1623	果樹グループ	<p>【ハウスカボスの加温開始前準備】 (2023. 12. 11発信)</p> <p>冬になると、色々な作物のハウス栽培が始まります。当チームではハウスカボスの試験を実施しており、加温開始前のこの時期には暖房機のメンテナンスが必要です。燃焼室や煙管等の適切な清掃が不着火などのトラブル防止や燃費向上に繋がるため、毎年の重要な作業となっています。</p>		果樹グループ カボス・中晩柑チーム	0972-82-2837	2023.12.31

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点

(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1612	果樹グループ	<p>【セミノールの袋掛け始まる】 (2023.11.16発信)</p> <p>県南部で栽培されているセミノール(商品名 サンクween)は全国2位の生産量を誇り、樹上で完熟させ翌年3月から出荷されます。着色前のこの時期から伸縮性のある黒色ポリエステル製袋(商品名:サンテ)で果実を覆う袋掛けを、11月から始めました。遮光することで、果皮を鮮やかな赤橙色に仕上げるすることができます。</p>		果樹グループ カボス・中晩柑チーム	0972-82-2837	2023.12.31
1611	果樹グループ	<p>【カンキツ類果実の色づき真っ盛り】 (2023.11.16発信)</p> <p>山々が紅葉するこの時期は、いろいろなミカンも色づき始め食べ頃を迎えます。気候の温暖な津久見市にあるカボス・中晩柑チームでは、200種類を超えるカンキツ類を栽培しており、これから収穫期を迎える不知火やセミノールなどの中晩柑類が色づき始めました。11月～3月にかけて収穫し、果実調査を行います。</p>		果樹グループ カボス・中晩柑チーム	0972-82-2837	2023.12.31
1595	果樹グループ	<p>【正確な気温計測を低コストで(続報)】 (2023. 10. 23発信)</p> <p>10月17日付(No. 1591)で紹介した自作「通風式放射よけ」の性能評価を行っています。放射よけ内部に外気を取り込むためのDCファンは、種類によって能力が異なるため、より安価で、より正確に温度計測ができるのはどのタイプか検証中です。低コストで正確に栽培環境を計測できることは、データに基づく合理的な施設栽培技術の重要な基礎となります。</p>	 	果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2023.11.30
1592	果樹グループ	<p>【電源が不要な三球温度計の性能確認】 (2023. 10. 17発信)</p> <p>日除けや通風装置がなくても太陽等からの放射の影響を計算で除去して正確な気温を求められることができる農研機構開発の三球温度計(特許第6112518号)を設置し、9/15～27に場内2地点(国東、宇佐)の気象観測データとの比較を行いました。得られた結果は良好で、電源配線が不要な本温度計の信頼性を確認できました。電源が取れないような園地でも正確な気温計測が可能であり、今後の現地調査や研究に活かします。</p>	 	果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2023.11.30
1591	果樹グループ	<p>【正確な気温計測を低コストで】 (2023. 10. 17発信)</p> <p>農作物の管理や栽培試験等の考察の際、正確な気象データを用いる必要があります。特に気温の計測では、太陽等からの放射の影響を除去が必要あり、日除けだけでは不十分です。そこで、日本農業気象学会が公開している「温度の正しい測り方(1)通風式放射よけの作り方」を参考に通風式放射よけを自作してみました。高価な市販品を購入せずに、数千円で放射の影響を軽減できますので、興味のある方は当グループまでお尋ね下さい。</p>	 	果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2023.11.30
1585	果樹グループ	<p>【普及指導員等を対象とした研修会が開催されました】 (2023. 10. 5発信)</p> <p>9月29日、県地域農業振興課主催の普及指導員等研修が果樹グループ温州ミカンチームで開催されました。今回の研修には、JAおいたの営農指導員1名と振興局の果樹担当普及指導員5名が参加しました。広域普及指導員と温州ミカンチーム研究員が講師となり、場内で栽培している極早生品種「おいたの早生」の収穫や選果、果実分析などについて実習を行いました。</p>	 	果樹グループ 企画指導担当	0978-72-0407	2023.10.31
1583	果樹グループ	<p>【令和5年度なし・ぶどう品評会が開催されました】 (2023. 9. 25発信)</p> <p>令和5年度なし・ぶどう品評会が大分市で開催され、主要産地の生産者から「あきつき(梨)147点、「シャインマスカット」45点が出品されました。9月15日に当グループ研究員や普及指導員による外観、果実品質に関する事前審査を実施し、翌日、パークプレイスでの最終審査で梨10点、ぶどう7点の入賞者が決定しました。品評会終了後には、試食や出品物の販売も行われ盛況でした。</p>	 	果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2023.10.31

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点 (合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1557	果樹グループ	<p>【温州みかんの摘果研修を行いました】 (2023. 8. 9発信)</p> <p>当グループでは、8月8日にJAおおいの新人職員3名を対象に温州みかんの摘果（果実の間引き）研修会を開催しました。最初に、座学で摘果の意義を説明した後、3通りの摘果方法（枝別全摘果など）についての実習を行いました。受講生からは、品種ごとに最適な摘果時期についての質問がでるなど、実践を想定した有意義な研修となりました。</p>	 	果樹グループ 企画指導担当	0978-72-0407	2023.8.31
1548	果樹グループ	<p>【スマート農機の実演研修会を行いました】 (2023. 7. 26発信)</p> <p>当グループでは、7月19日に市町職員など15名を対象にスマート農機の実演研修会を開催しました。この機種は人に追従して運搬作業を行なうだけでなく、アタッチメントを装着すれば農薬散布作業にも使えるもので、参加者は皆さん興味津々でした。カンキツ栽培においても、機械化・省力化のニーズが高いことを、改めて確認することができました。</p>	 	果樹グループ 企画指導担当	0978-72-0407	2023.8.31
1519	果樹グループ	<p>【ハウスみかんの高温対策現地実証試験を行なっています】 (2023. 6. 1発信)</p> <p>ハウスみかん栽培において夏季の高温対策は必須ですが、遮光による透過量不足や、資材のコスト高など多くの課題があります。そこで、温州ミカンチームでは生産者や普及指導機関と連携し、対策に取り組んでいます。比較的安価で生育に必要な日射量確保が期待できる遮熱ペイントを屋根に吹きつけた調査（施設内温度上昇、透過赤外線量等）に協力しながら、現場への普及の可能性を検討します。</p>	 	果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2023.6.30
1517	果樹グループ	<p>【ドローンによる温州みかんの摘果剤散布試験を行いました】 (2023. 5. 29発信)</p> <p>カンキツ栽培における摘果作業は、高品質果実を生産するために重要ですが、生産者の高齢化や労働力不足等により省力化が求められています。摘果剤を動力噴霧機で散布する薬剤摘果も実用化されていますが、温州ミカンチームではさらなる省力化を目的として、摘果剤のドローン散布（約3リットル/樹）を試験的に行いました。動噴散布とドローン散布の作業時間や摘果効果等について比較検討し、有効性を判定する予定です。</p>	 	果樹グループ 温州ミカンチーム	0978-72-0407	2023.6.30
1491	果樹グループ	<p>【ハウスブドウの花穂整形作業が始まりました】 (2023. 4. 3発信)</p> <p>当チームは、ブドウの「シャインマスカット」、「ピオーネ」を加温ハウスで栽培していますが、このハウスブドウの花穂整形作業が始まりました。花穂整形作業とは、長さ30cm程度のブドウの花穂に着生した多数の花蕾のうち、先端3cm程度だけを残して他はすべて除去する整形作業のことです。もったない気もしますが、高品質のブドウを作るためには欠かせない作業の一つです。</p>		果樹グループ 落葉果樹チーム	0978-37-0149	2023.4.30

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点

(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
④花きグループ (計16件)						
1665	花きグループ	【花き試験研究成績・設計検討会を実施しました。】 (2024. 3. 6発信) 2月29日に令和6年度の花き試験研究成績・設計検討会を関係機関担当者とともに実施しました。この会議は令和5年度の試験成績の概要とそれに基づいた次年度の試験設計書の検討を行うものです。この設計書の良し悪しが次年度の試験研究成果を左右するものであり、大変重要な位置づけとなっています。		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.3.31
1652	花きグループ	【花き受託研修を実施しました。】 (2024. 2. 6発信) 1月16日にJA営農指導員3名を対象に、花きの受託研修を実施しました。今回はスイートピーの生理生態や栽培管理のポイントについて座学および栽培実習を行いました。栽培実習ではスイートピーの採花、巻きひげ取り、脇芽摘みや誘引、つる下ろし等の作業を実践しました。今後も生産現場で農家指導を行う職員に対し各種研修を実施します。		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.2.29
1642	花きグループ	【トルコギキョウ冬季品種展示会を行いました。】 (2023. 12. 27発信) 花きグループで栽培しているトルコギキョウが開花期となり、12月7日にトルコギキョウの品種展示会を行いました。当日は生産者と種苗会社、普及指導員等関係者約40名が参加しました。参加者は種苗会社から品種特性の説明を受けた後、栽培施設内に移動し5社17品種のトルコギキョウを見学し、意見交換を行いました。		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2024.1.31
1629	花きグループ	【全日本花卉品種審査会に参加しました】 (2023. 12. 12発信) (一社)日本種苗協会主催のトルコギキョウ年内開花品種の審査会が11月21日に熊本県で開催され、花きグループの研究員が審査員として参加しました。各種苗メーカーから出品された22品種を対象に審査が行われ、その中から6点が優秀な品種として入賞しました。		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2023.12.31
1628	花きグループ	【専門技術研修を実施しました。】 (2023. 12. 12発信) 12月1日に新任普及指導員とJA営農指導員、市職員10名を対象に、花きの専門技術研修を実施しました。研修生は花市場でのせり場研修や情報交換を行うとともに、花きの流通と販売について学びました。また、キクの生理生態や栽培管理のポイントを花きグループの研究員が講義し、定植方法の指導を行いました。今後も広域普及指導員と連携して各種研修を行います。	 	花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2023.12.31
1621	花きグループ	【スイートピーの採花が始まっています】 (2023. 12. 6発信) 9月に定植したスイートピーが順調に生育しており、採花が始まりました。花きグループでは来春まで採花調査を行い、高品質で切り花本数が多い系統や落蕾しにくい系統の作出、新たな花色の開発、病害虫の防除方法などの試験を実施します。		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2023.12.31
1616	花きグループ	【シクラメンの開花が始まっています】 (2023. 11. 22発信) 冬を代表する鉢花といえばシクラメンが筆頭です。花きグループでは定番の花色である赤やピンク、白に加え、紫がかかった色やフリルの花びらを持つものなど様々な種類のシクラメンを試験の一環で栽培しています。当グループでは場内販売を行っていますので、お気軽にお越しください。		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2023.12.31

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点


(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1590	花きグループ	<p>【ヤマジノギクの開花が始まりました】 (2023. 10. 12発信)</p> <p>花きグループでは10月から12月まで継続して出荷できる優良な切り花形質を持つヤマジノギクの品種を育成しています。7月上旬に定植したヤマジノギクの開花が始まっており、花のボリュームや草姿、花色、調整のしやすさなどの切り花形質を調査し、より優れた系統を選抜していきます。</p>	 	花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2023.10.31
1586	花きグループ	<p>【トルコギキョウの品種検討会を行いました。】 (2023. 10. 5発信)</p> <p>7月5日に久住高原農業高校で定植したトルコギキョウが、現在開花最盛期を迎えています。ハウス内に開花した21品種、約1,000本の花を前に、9月19日から種苗会社、生産農家、普及指導員等と意見交換を行いました。花きグループでは聴取した意見も参考にし、生理障害の発生が少なく、地域に適した品種を選定します。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2023.10.31
1579	花きグループ	<p>【専門技術研修（花き2年目）を実施しました】 (2023. 9. 25発信)</p> <p>9月19日に、県主催の専門技術研修（花き2年目）を開催し、採用2年目の普及指導員や若手農協営農指導員4名を対象に、花きの調査方法について研修しました。調査の目的や、試験区の取り方、調査項目、実際の調査方法について学んだ後、当施設内のトルコギキョウを対象に実習を行いました。今後もこの研修を実施し、普及指導員等の資質向上に役立てます。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2023.10.31
1561	花きグループ	<p>【旧盆用ホオズキを出荷しました】 (2023. 8. 10発信)</p> <p>お盆の時期にはかせないホオズキですが、大分県は質・量ともに日本一の生産県です。花きグループでも今年4月に定植したホオズキの収穫と出荷を行いました。現在、ホオズキの需要拡大を目標に、お盆以外にも収穫できる、またカジュアルユースにも対応できるホオズキ生産の試験研究に取り組んでいます。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2023.8.31
1551	花きグループ	<p>【大分県花き展の審査を行いました】 (2023. 8. 2発信)</p> <p>7月28日からiichiko総合文化センターで行われた「第66回大分県花き展」において、県内の生産者から出品されたホオズキや輪ギク、ヒマワリなど114点の審査をしました(審査員は県内の花市場、農業団体、行政、試験研究で構成)。最高賞にあたる農林水産大臣賞には佐伯市の佐藤さんが出品したホオズキが選ばれました。今後もこの取り組みを続け、県内花き生産者の技術向上に役立てます。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2023.8.31
1549	花きグループ	<p>【専門技術研修（基礎花き）を実施しました】 (2023. 7. 26発信)</p> <p>7月19日、21日に新任普及指導員とJA営農指導員を対象に、花きの専門技術研修を実施しました。今回は花き産業の現状と今後の展望、主要花きの栽培管理や発生する病害虫の種類、防除対策等について講義や実習を交えて基礎知識を学んでもらいました。今後も広域普及指導員と連携して各種研修を行い、現地指導員のレベルアップを図ります。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2023.8.31
1544	花きグループ	<p>【久住高原農業高校と連携してトルコギキョウ栽培試験を行っています】 (2023. 7. 20発信)</p> <p>花きグループではトルコギキョウの安定生産技術に関する試験研究に取り組んでいます。7月5日に久住高原農業高校で当グループの研究員と生徒達で21品種、約1,000本の苗を高校のハウス内に定植しました。今後、生育状況の調査を行い生理障害の発生が少ない地域に適した品種を選定します。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2023.8.31
1538	花きグループ	<p>【ヤマジノギクの新作型を開発中】 (2023. 7. 6発信)</p> <p>ヤマジノギクは大分県オリジナル花き品種で、大分県や宮崎県で自生していた野生種を品種改良し園芸種としたものです。花きグループでは10月から12月まで継続して出荷できる、優良な切り花形質を持つ品種の育成に取り組んでいます。また、新たな需要を喚起するため、従来にはない7月出荷の作型開発を実施しています。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66-4706	2023.7.31

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点

(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1537	花きグループ	<p>【プリンセスリーフの検討会を開催しました】 (2023.7.6発信)</p> <p>プリンセスリーフ研究会は6月27日に花きグループで検討会を開催しました。プリンセスリーフとは葉ボタンの新たな需要開拓と高単価を目指すため、大分県立農業大学校が開発した染色技術によるカラフルな葉ボタンです。当日は生産者や関係者20名がつどい、前年の反省や今後の取り組みを協議しました。花きグループからは葉ボタン26品種の栽培試験結果を発表し、情報提供を行いました。</p>		花きグループ 企画指導担当	0977-66- 4706	2023.7.31

農林水産研究タイムリー情報


2024年4月30日時点

(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
------	-----	------	-------	------	------	------

⑤畜産研究部

(計1件)

1609	畜産研究部	<p>【家畜人工授精講習会を開催】 (2023. 11. 9発信)</p> <p>11月6日から12月8日までの5週間、畜産研究部において令和5年度家畜人工授精講習会（県畜産振興課主催）を開催し、肉用牛の担い手等12名が受講しています。当部職員は講義と実習の講師を務め、受講生の修業試験合格と免許取得に向け全面的にバックアップします。</p>		畜産研究部 企画指導担当	0974-76- 1214	2023.11.30
------	-------	---	--	-----------------	------------------	------------

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点 (合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
⑥林業研究部 (計22件)						
1669	林業研究部	<p>【クヌギ活用研修会の開催】 (2024. 3. 14発信)</p> <p>3月11～12日に当部の亀井部長により、昼休み等を利用して「クヌギ活用研修会」が開催されました。「林業職場の職員ならシイタケ生産などのクヌギの利活用も理解しておくべき」と、場内環境整備で伐ったクヌギを活用し、職員や非常勤職員13名が参加して、場内種駒打ち等の実習を行いました。</p>	 <p>駒打ち作業の様子</p>  <p>研修会を終えて</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2024.3.31
1666	林業研究部	<p>【早生樹並びにスギ大径材利用に関する研修会の開催】 (2024. 3. 13発信)</p> <p>3月5日に県林業の普及員及び若手職員等37名を対象に、現在の県林業重点施策と、それに対する試験研究の取組について情報共有し、業務推進の方向性を統一することを目的とした研修会を開催しました。参加者からは「県の施策と取組みについて基本的な部分から再確認できた。」等の感想がありました。</p>	 <p>研修会の様子</p>  <p>古茂チームリーダーによる研修の様子</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2024.3.31
1658	林業研究部	<p>【令和5年度研究発表会の開催】 (2024. 2. 9発信)</p> <p>2月6日に林業研究部会議室において令和5年度の研究発表会を開催し、林業関係団体等53名の参加がありました。研究発表3課題と特別講演会を行ない、研究発表では多数の質問と今後の研究に対する要望が寄せられました。</p>	 <p>発表会の様子</p>  <p>河津研究員の発表の様子</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2024.2.29
1654	林業研究部	<p>【大分県樹苗生産農業協同組合との共同試験報告会の開催】 (2024. 2. 6発信)</p> <p>1月30日に林業研究部の会議室において、県下の樹苗生産者と県職員を対象に苗木生産に関する共同試験報告会を開催し、37名の参加がありました。今回は、森林チーム研究員から、スギ・ヒノキ・コウヨウゼンの苗木生産に関する報告を行い、苗木生産者との活発な意見交換が行なわれました。</p>	 <p>報告会の様子</p>  <p>安部研究員による報告</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2024.2.29
1653	林業研究部	<p>【スギ優良品種の払い下げ用採穂量調査】 (2024. 2. 6発信)</p> <p>林業研究部では、スギのエリートツリー等の優良品種について試験圃場の採穂用台木から大分県樹苗生産農業協同組合へ穂木の払い下げを行なうための採穂量調査を行ないました。この取り組みは、県が進める奨励品種の苗木生産量を拡大に資するため、今後も継続していきます。</p>	 <p>少花粉スギの調査状況</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2024.2.29
1646	林業研究部	<p>【スギ優良品種の材質特性の解明】 (2024. 1. 5発信)</p> <p>当研究部木材チームでは「低コスト造林施策推進に向けたスギ優良品種の材質特性の解明」に取り組んでいます。今後植林を助めるスギ優良系統の材質特性（密度、含水率、強度等）について、現在、強度試験に取り組んでいます。1本の木から切り出した材木の高さや、年輪の位置の違いによる曲げヤング係数や曲げ強度、圧縮強度等について、各試験で1,300体を超える強度試験を行っています。</p>	 <p>試験片の製作と測定</p>  <p>曲げ破壊試験の様子</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2024.1.31

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点

(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1645	林業研究部	<p>【第36回研究功績賞受賞】 (2024. 1. 5発信)</p> <p>当研究部木材チームの山本幸雄主幹研究員が全国林業試験研究機関協議会による「第36回研究功績賞」の受賞者に決定しました。九州では一人だけの受賞となります。これは、氏の「大径材や県産材の利活用」に関する試験研究成果に対する功績が認められたもので、1月18日に東京で表彰式が開催されます。研究功績賞の受賞は、昨年度の高良上席主幹研究員に続き2年連続の快挙となります。</p>	 <p>受賞した山本主幹研究員</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2024.1.31
1633	林業研究部	<p>【大径材の多様な利活用に向けた乾燥技術の開発】 (2023. 12. 13発信)</p> <p>当研究部では、昨年末に導入した多機能木材乾燥機を使用して、スギ大径材の高品質乾燥材の生産に関する技術開発に取り組んでいます。先日は、スギの平角材を高品質乾燥する方法を検討するため、蒸気式乾燥と高周波乾燥を組み合わせた複合乾燥を行いました。今後、蒸気式乾燥やその他の乾燥方法と比較し、効果を検証していきます。</p>	 <p>多機能木材乾燥機の様子</p>  <p>重量や寸法変化の測定</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2023.12.31
1632	林業研究部	<p>【佐賀県唐津・東松浦林業協議会視察来訪】 (2023. 12. 13発信)</p> <p>12月5日、佐賀県の「唐津・東松浦林業協議会」17名が視察来場されました。今回は、当部が取組んでいる育林コスト提言に関する研究を中心に、早生樹の取り組み等を説明し、場内圃場の見学を行いました。特に早生樹に関しての質問が多く、森林整備に対する強い意欲が感じられました。</p>	 <p>スギ挿し木苗の見学</p>  <p>早生樹利活用事例の見学</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2023.12.31
1631	林業研究部	<p>【県内コウヨウザン林分の調査】 (2023. 12. 13発信)</p> <p>12月4日、佐伯市直川の国有林の樹木展示林でコウヨウザンの伐採計画があると聞き、現地調査を行いました。展示林にはコウヨウザンが8系統植えられており、今後、森林管理署と連携し、コウヨウザンの成長、材質特性の解明や伐採後の施業について取り組んでいきます。</p>	 <p>佐伯市直川のコウヨウザン林</p>  <p>コウヨウザン林分の確認</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2023.12.31
1630	林業研究部	<p>【スギ雄花着花状況調査】 (2023. 12. 13発信)</p> <p>当研究部では、花粉発生量の予測調査として、スギ雄花着花状況の定点調査を毎年行っており、県内各地の20地点の状況を調査し報告しています。今年度の調査結果は現在とりまとめ中ですが、昨年よりは少ないものの、例年並みの花粉量の見込みです。</p>	 <p>観測定点のスギ林</p>  <p>双眼鏡で1本ずつ確認する</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2023.12.31
1625	林業研究部	<p>【日田の木と暮らしのフェアへの参加】 (2023. 12. 11発信)</p> <p>12月3日、日田市のバトリア日田で開催された「木と暮らしのフェア」に林業研究部も出展参加しました。今回は、日頃の試験研究の成果についてパネル展示等を行い、ブースには約100名が訪れました。内容に興味を持ち質問をされる方や、シカやアナグマの生態についてのビデオ上映に喜び子供達の姿がありました。</p>	 <p>当部の展示ブースの様子</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2023.12.31

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点

(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1619	林業研究部	<p>【丹生地区官行造林組合の視察来訪】 (2023. 11. 28発信)</p> <p>11月24日、大分市の丹生地区官行造林組合10名が視察来場されました。この視察は、組合有林の伐採に伴う今後の植林の樹種等を検討するため、当部が取組むスギ特定母樹やコウヨウウザン等の取組みを学ぶ事が目的です。来場者は室内研修の後、研究部内の圃場を見学しながら、植林する樹種や品種について、話し合われていました。</p>	 <p>林業研究部の取り組み(座学)</p>  <p>研究部内圃場等の見学</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2023.12.31
1599	林業研究部	<p>【九州森林学会における研究発表】 (2023. 10. 26発信)</p> <p>10月21日に佐賀大学において、九州森林学会が開催され、森林チームの松本主任研究員が「大分県におけるスギさし木品種の変遷と地理的分布」の研究発表を行いました。また、前日の総会において、来年度の九州森林学会が本県で開催されることが決定しました。林業研究部は更なる研究の推進を図り、その成果を広く公表していきます。</p>	 <p>松本主任研究員の発表の様子</p>  <p>亀井部長による次期開催案挨拶</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2023.11.30
1598	林業研究部	<p>【日田林工高等学校生のインターンシップ】 (2023. 10. 25発信)</p> <p>10月18日に、日田林工高等学校の2年生3名がインターンシップで来訪しました。彼等は将来、林業の公務員を目指しており、林業研究部の業務内容の説明を受け、場内見学した後、スギの採穂圃の剪定実習に取組みました。なれない作業に四苦八苦した様子でしたが、研究という分野の取り組みに興味津々な様子でした。将来、研究員として活躍してくれることを期待しています。</p>	 <p>座学の様子</p>  <p>スギ採穂圃の剪定実習</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2023.11.30
1582	林業研究部	<p>【林業研究部に出没する野生鳥獣を利用した対策試験】 (2023. 9. 25発信)</p> <p>当部は日田市の市街地から遠くない丘陵地に位置しますが、森林に囲まれており、シカ、ノウサギ、キツネ、アナグマ等多くの野生鳥獣が出没します。この環境を利用し、圃場でシカの剥皮対策試験(各種シカ被害対策資材の比較試験)を行なっています。また、暗視カメラによるアナグマの生態観察や、音や案山子を使用した忌避効果試験も行なっています。</p>	 <p>シカ被害対策資材比較試験</p>  <p>アナグマ忌避対策試験</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2023.10.31
1581	林業研究部	<p>【日本木材学会九州支部大分大会の開催】 (2023. 9. 25発信)</p> <p>9月7～8日に、日本木材学会九州支部大分大会が立命館アジア太平洋大学(APU)グリーンcommonsで開催されました。九州内の公設試や大学、企業等から約60名が出席し、木材に関する研究発表等が行なわれ、当部からは加茂主任研究員による口頭発表、古曳上席主幹研究員、山本主幹研究員によるパネル発表を行いました。また、APUの須藤教授、九州林産株式会社の松尾林業部長による特別講演会も開催されました。</p>	 <p>加茂主任研究員の口頭発表</p>  <p>特別講演会の様子</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2023.10.31

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点

(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1580	林業研究部	<p>【おおいた林業アカデミーへの研修会】 (2023. 9. 25発信)</p> <p>8月28日に、「おおいた林業アカデミー」の研修生等12名を対象に研修会を開催しました。このアカデミーは、林業への就業を目指す方々が長期研修を通じ、林業の知識や技術の習得及び高性能林業機械等の操作資格の取得を目指すものです。今回、伐採現場の技術研修だけでなく、伐採した木の取扱い等を学ぶため、木材チーム研究員が講師となり木材に関する基礎知識や、製材、乾燥、強度把握等について研修を行いました。</p>	 <p>座学の様子</p>  <p>製材の加工仕上げを学ぶ</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2023.10.31
1543	林業研究部	<p>【林業職員を対象とした研修会の開催】 (2023. 7. 13発信)</p> <p>県では、新任林業普及指導員等に対して毎年、森林・林業・木材産業における課題や試験研究の取り組みについて研修を行っています。今年は7月5日(水)に林業研究部において開催し、県や市の林業職員15名が県の重点施策に関する情報や、施策に沿った課題の取り組みについて学びました。試験研究の成果は、林業普及指導員が現場に伝えることが基本であり、今後も一層の連携強化を図ります。</p>	 <p>座学の様子</p>  <p>現地研修の様子</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2023.7.31
1539	林業研究部	<p>【コウヨウザンの萌芽枝調査】 (2023. 7. 10発信)</p> <p>県では、森林資源の平準化を目的にスギ特定母樹等の早生樹(成長の早い樹)の造林を推進するため、昨年6月に杵築市山香町にコウヨウザンの県営採種園を造成しました。この採種園では国の研究機関で選抜された優良5系統を「寝伏せ」という方法で植栽しています。林業研究部では、萌芽枝の調査を定期的に行っており、この結果を活用してコウヨウザンの種苗生産に役立てていきます。</p>	 <p>萌芽枝の伸長調査の様子</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2023.7.31
1506	林業研究部	<p>【高周波減圧乾燥試験の実施】 (2023. 5. 1発信)</p> <p>林業研究部では木材乾燥に関する研究を加速化するため、昨年度、多機能木材乾燥機を導入しました。この乾燥機は、一般的な蒸気式乾燥(高温、中温)に加えて、高周波乾燥及び減圧乾燥の機能を備え、必要に応じて、蒸気式と高周波などの組み合わせ乾燥が可能となります。</p> <p>現在は、大径材の多様な利活用に向け、スギ平角材の高周波減圧乾燥試験を行っています。</p> <p>この多機能木材乾燥機を活用して、新たな乾燥方法と従来の蒸気式乾燥方法の組み合わせにより、高品質な乾燥材の生産について検討するとともに、最終的には、現場にフィードバックできる乾燥方法の解明に努めます。</p>	 <p>高周波減圧乾燥試験の様子</p>	林業研究部 企画指導担当	0973-23-2146	2023.5.31

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点

(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
⑦きのこグループ (計5件)						
1641	きのこグループ	【きのこグループ研究発表会2】 (2023. 12. 27発信) 12月13日に開催した研究発表会では、県からの発表に続いて、乾シイタケ栽培に従事して65年になる小野祝保さん（豊後大野市）の特別講演を実施しました。刻々と変わる気象条件に対し、常に新しい手法への挑戦と分析を繰り返し、様々な栽培技術を確立してきた小野さんの具体的で詳細な説明に、来場者の皆が深く感銘を受けていました。		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2024.1.31
1640	きのこグループ	【きのこグループ研究発表会1】 (2023. 12. 27発信) 12月13日に研究発表会を開催し、当グループから「大分県の気象条件に適合した乾シイタケ品種の育成」、「乾シイタケの機能性と味覚について」の発表、県メーカーから「うまみだけの取組」の紹介がありました。当グループでは乾シイタケ生産者の経営安定、新たな販売戦略による商品開発等を目的として研究を行っています。		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2024.1.31
1553	きのこグループ	【米国の大学から視察】 (2023. 8. 4発信) 米国北西海岸の2大学4名の研究員が、シイタケの先進地として、7月31日に当グループを視察しました。2大学では、里山の雑木利用と農業者の多角経営の観点からシイタケを選定し、6年前から栽培試験を行っているそうです。研究の説明や施設の見学、佐伯市宇目の生産現場の視察を通して日本の栽培技術を学びました。		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2023.8.31
1504	きのこグループ	【乾シイタケの新たな交配株の作出を行っています】 (2023. 4. 28発信) きのこグループでは、乾シイタケ新品種の育成に取り組んでおり、顕微鏡で交配の確認をしています。交配が確認できた菌株は、菌糸の伸長調査等で選抜していきます。選抜された菌株は原木で栽培試験を行い、発生量や形質等の特性調査を行います。		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2023.5.31
1492	きのこグループ	【クヌギ原木の伐採・玉切り時期の研究をしています】 (2023. 4. 3発信) きのこグループでは、原木の伐採・玉切り時期がシイタケの発生に与える影響を調査しています。昨年の10月から今年の1月まで毎月伐採を行い、1月に玉切りを行いました。玉切りした原木を2月から人工気象室で管理しています。原木の水分条件の影響や管理方法を検討し、良質なほど木育成管理技術を確立していきます。		きのこグループ 企画指導担当	0974-22-4236	2023.4.30

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点 (合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
------	-----	------	-------	------	------	------

⑧水産研究部 (計28件)

1664	水産研究部	<p>【アユの遡上状況を調査中！】 (2024. 3. 6発信)</p> <p>当研究部では番匠川の遡上アユについて、遡上時期やサイズ等を毎年継続的に調査しています。今シーズンも2月から調査を開始し、例年よりやや早い2月27日に遡上アユを初確認しました。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2024.3.31
1657	水産研究部	<p>【研究発表会を開催しました】 (2024. 2. 9発信)</p> <p>当部では水産関係研究者(水産研究部研究員、漁業公社職員、県振興局水産普及指導員等)の相互理解と資質向上を図るため、昭和45年から研究発表会を毎年行っています。今年度は2月2日に大分市で開催しました。合計12課題の研究発表がなされ、熱心な質疑や討論が行われました。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2024.2.29
1656	水産研究部	<p>【養殖生簀への波の影響を調査中】 (2024. 2. 9発信)</p> <p>養殖生簀に対する波浪の影響を調査するため、養殖会社(佐伯市)の養殖生簀に流速・水圧のセンサーを設置しました。今後、波浪によって、どの程度養殖生簀が変形しているか等について、生簀を浮かべた状態と10m沈めた状態で比較検証します。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2024.2.29
1650	水産研究部	<p>【生簀網の汚れを少なくする改良試験に着手！】 (2024. 1. 31発信)</p> <p>当研究部では、養殖ブリの健全な育成と環境負荷軽減に資するため、昨年度から生簀網の汚れを最小限に抑える改良試験に着手しています。今回、銅合金製網と従来の亜鉛メッキ鉄製網で水生生物の付着状況を比較したところ、海中垂下282日経過時で、銅合金製網にはほとんど付着はみられませんでした。今後は耐久性や経済性について検証します。</p>	<p>亜鉛メッキ 銅合金製網 鉄製網</p>  <p>↓ 282日後目 ↓</p> 	水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2024.2.29
1635	水産研究部	<p>【かぼすブリの出荷前検査を行っています！】 (2023. 12. 18発信)</p> <p>正月用の養殖ブリの出荷がまもなく始まります。当研究部では年末に出荷する「かぼすブリ」の切身の色変わりを抑えることができているかを調べるため、出荷前検査を実施しています。品質をチェックすることで、味よし・香りよし・見た目よしの三拍子そろった「かぼすブリ」を養殖業者は安心して出荷できます。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2024.1.31
1626	水産研究部	<p>【タチウオの耳石を採取しました！】 (2023. 12. 11発信)</p> <p>耳石とは頭の中にある硬い組織で、多くの魚種で樹木の切り株のように年輪が刻まれています。今回、豊後水道で漁獲されたタチウオから耳石を採取しました。薄く研磨した耳石から読み取られるタチウオの年齢からは生まれた時期等が推定され、これらの情報は資源評価や資源管理に活かされます。</p>	  <p>タチウオの耳石(長さ約5~10mm)</p>	水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2023.12.31
1620	水産研究部	<p>【放流キジハタの定着状況調査を開始しました！】 (2023. 12. 6発信)</p> <p>11月27日に津久見市内の港内において全長約8cm、2,950尾のキジハタ(標識として左腹びれを抜去)を放流しました。今回「港内」と「港外」で放流後の定着状況や摂餌状況を調査し、どちらがキジハタの放流場所として適しているかを検討します。後日、港外の岩礁帯に右腹びれを抜去したキジハタを放流予定です。</p>	 	水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2023.12.31

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点

(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1615	水産研究部	<p>【JICA研修視察を受け入れました！】 (2023. 11. 22発信)</p> <p>JICA（国際協力機構）の研修の一環として、中南米7か国7名が水産研究部を訪れました。かぼすブリの生産開発をテーマに、県と養殖業者、県漁協が一体となってブランド開発に取り組んだ例を紹介しました。研修生は「商業化までの期間はどのくらいか？」や「カボス入りの餌に魚はすぐ慣れるのか？」等活発に質問していました。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2023.12.31
1605	水産研究部	<p>【ブリ秋種苗、現地養殖試験開始】 (2023. 11. 7発信)</p> <p>No1552（2023年8月3日発信）で報告した「ブリの夏季採卵」について、その後の種苗生産が順調に推移し、10月中下旬に、約6万7千尾のブリ種苗（全長約10cm）を津久見と蒲江の養殖場へ試験出荷しました。今後、現地養殖試験として成長や歩留まりを追跡するとともに、令和7年春の端境期（養殖ブリ出荷量減少期）に高品質なブリとなるかを、養殖業者と共に調査します。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2023.11.30
1603	水産研究部	<p>【水産研究部で漁業学校開催される！】 (2023. 10. 31発信)</p> <p>大分県では漁業後継者育成のため、県漁協と連携して漁業学校を開催しています。今回、はえなわ漁を目指す研修生を対象に、水産研究部の研究員が講師となり、海藻生態学と栽培漁業について講義を行いました。座学だけでなく、実際にカジメ胞子の顕微鏡観察やアマモのポット栽培を体験するなど、充実した内容となりました。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2023.11.30
1602	水産研究部	<p>【ヒラメの選抜育種を実施中！3】 (2023. 10. 31発信)</p> <p>当研究部では病気に強く成長の良いヒラメの育種を行っています。今回、陸上水槽で飼育中のヒラメにPITタグを埋め込みました。PITタグとはマイクロチップが入ったタグで、魚に埋め込むことで個体識別できるようになります。今後、個体別に成長を追跡し、選抜育種を進めていきます。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2023.11.30
1589	水産研究部	<p>【養殖ブリの疾病に対する新たなワクチン開発に取り組んでいます！】 (2023. 10. 12発信)</p> <p>ブリ養殖においてノカルジア症は大きな被害を及ぼす疾病の一つですが、現在ワクチンの実用化には至っていません。当研究部では新たなワクチンを開発するため、東京海洋大学との共同研究に取り組んでいます。今回の研究で成果が認められれば、ノカルジア症を予防できるワクチンの実用化が期待されます。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2023.10.31
1575	水産研究部	<p>【マガキ天然採苗の比較試験を実施しました】 (2023. 9. 13発信)</p> <p>効率的にマガキの種苗を確保するため、「クベル（プラスチック製の皿を重ねた構造の採苗器）」と「空のペットボトル」を採苗器とした天然採苗の比較試験を佐伯市鶴見で実施しました。昨年度はペットボトルを収容した網袋の目合いが小さく、汚れやすかったため、今年度は目合いを大きくし実施しました。今回はマガキの付着数だけでなく、他の生物の付着状況や付着したマガキの剥ぎ取りやすさなど作業性についても検討します。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2023.9.30

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点

(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1570	水産研究部	<p>【大学生のインターンシップを受入れました！】 (2023. 9. 6発信)</p> <p>9月1日、大学生（水産系学部）3名がインターンシップで訪れました。研究施設や調査船「豊洋」の見学、加工や資源解析、種苗生産の実務の体験をしてもらいました。このインターンシップを通じて、水産業における県の役割の理解を深め、職業の選択肢の1つとして大分県の水産職を考えていただけたら幸いです。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2023.9.30
1562	水産研究部	<p>【水産研究部で漁業学校開催される！】 (2023. 8. 22発信)</p> <p>大分県では漁業後継者育成のため、県漁協と連携して漁業学校を運営しています。今回、魚類養殖業の後継者である研修生を対象に、水産研究部の研究員が講師となり、魚類栄養学とワクチン接種技術について講義を行いました。研修生は説明に熱心に耳を傾け、疑問点について活発に質問をするなど、今後の活躍が期待されます。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2023.9.30
1560	水産研究部	<p>【養殖シマアジに対する3型レンサ球菌症の感染実験を開始！】 (2023. 8. 9発信)</p> <p>本県で養殖魚に被害を及ぼす代表的な病気としてレンサ球菌症（1型、2型）が知られていますが、令和3年12月に新たに3型の菌が確認され、養殖シマアジにおいて問題となっています。今回県内の養殖シマアジから分離した菌株を用いて感染実験を開始しました。実験により感染の再現性を確認し、今後のワクチン開発につなげます。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2023.8.31
1559	水産研究部	<p>【ちりモン探しを実施しました】 (2023. 8. 9発信)</p> <p>子どもたちに海の生物の多様性を伝えるため、今年も「うずき海のほんまもん漁業推進協議会」主催の「夏休みおさかな教室」に参加し、ちりモン（ちりめんモンスター）探しを実施しました。8月5日に臼杵市役所で開催され、参加した小学生22名は一心不乱にちりめんに混じった稚魚やエビなどを探し出し、図鑑を見たり、周りの大人に聞いたりして、生き物の名前を当てていました。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2023.8.31
1552	水産研究部	<p>【ブリの夏季採卵を実施しました】 (2023. 8. 3発信)</p> <p>養殖ブリの出荷量が減少する端境期(4～6月)を解消するため、当研究部では天然ブリの産卵期より約半年遅い8月に採卵し、生産した種苗による現地養殖試験を実施しています。昨年12月から照度や水温をコントロールして親魚養成を行い、今年は予定よりも少し早く7月28日に約157万粒の採卵に成功しました。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2023.8.31
1545	水産研究部	<p>【かぼすヒラマサの食味試験を行いました！】 (2023. 7. 20発信)</p> <p>かぼすブリの出荷は10月から翌年3月までと期間が限定されており、端境期（春～夏）のかぼすブリ類の出荷がマーケットから求められていました。当研究部では養殖ヒラマサにカボス入りの餌を与えることで、夏でも出荷できるかぼすブリ類として開発しました。食味試験では、これまでより良好な結果が得られ、今後、かぼすブリからかぼすヒラマサのゴールデンレーで、周年かぼすブリ類が食べられることが期待されます。</p>	 <p>カボス見度ペースト 食味試験</p> <p>カボス入りと普通の刺身</p>	水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2023.8.31
1542	水産研究部	<p>【佐伯鶴城高校生に水産研究等の魅力紹介！】 (2023. 7. 12発信)</p> <p>佐伯鶴城高校では、地域の産業の魅力を知り、地域で働く人々の思いに触れることで、望ましい職業観の育成や進路意識の向上を図るため、高校1年生を対象に「地元産業魅力説明会」を開催しています。当研究部は毎年このイベントに参加し、大分県・佐伯市の水産業の特徴や研究内容について紹介しています。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2023.7.31

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点


(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1535	水産研究部	<p>【銅合金製網による疾病防除の可能性を調査します！】 (2023. 6. 26発信)</p> <p>昨年度から養殖中の生簀網の汚れを少なくする銅合金製網による試験に着手しています。今年度は、銅による抗菌作用が養殖魚の疾病防止に及ぼす影響について調査します。効果が確認できれば網の汚れだけでなく、疾病防除にも役立つことが期待されます。</p>	 <p>亜鉛メッキ鉄製網</p> <p>銅合金製網</p>	水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2023.7.31
1534	水産研究部	<p>【赤潮研修会を開催しました！】 (2023. 6. 26発信)</p> <p>赤潮が多発する夏場を前に、豊後水道北部海域の養殖業者等を対象に赤潮研修会を開催しました。有害赤潮の発生メカニズムや当研究部が実施している赤潮発生監視技術の取組事例を紹介し、また赤潮プランクトンの顕微鏡観察の実習も行いました。今後も赤潮被害を軽減するため研修会の開催や情報発信に努めていきます。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2023.7.31
1524	水産研究部	<p>【病気に強い養殖ヒラメの選抜育種を実施中！2】 (2023. 6. 13発信)</p> <p>当研究部では病気に強いヒラメの育種を行っています。今回、九州大学と連携して、育種したヒラメの体表の粘液を採取しました。魚の体表粘液は、病原体の体内への侵入を防ぐバリアーとして機能しています。今後は、粘液成分を分析し、耐病性の評価や機構解明に活用する予定です。</p>		水産研究部 企画指導担当	0972-32-2155	2023.6.30
1518	水産研究部	<p>【リンホシスチス病を防ぐため養殖ヒラメの感染実験を開始！】 (2023. 5. 30発信)</p> <p>当研究部では、養殖ヒラメの商品価値を落とすリンホシスチス病対策に取り組んでいます。今回ヒラメ自身の免疫でリンホシスチス病を防ぐことが可能か検証するため感染実験を開始しました。効果が認められれば、ワクチン開発に向けた重要な知見となり、実用化が期待されます。</p>		水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2023.6.30
1512	水産研究部	<p>【小型天然モジャコの餌付け試験を実施中！】 (2023. 5. 23発信)</p> <p>養殖用のブリ稚魚（モジャコ）の不漁に備え、通常は使用しない2cm程度の小型稚魚（ジャミモジャコ）の育成技術開発に取り組んでいます。今回、現地の海面イケースで配合飼料に冷凍コペポダ（動物プランクトン）を混ぜた餌で餌付け試験を行いました。今のところ餌食いもよく、順調に生育しており、成果が期待されています。</p>	 <p>モジャコへの餌付け作業</p>	水産研究部 養殖環境チーム	0972-32-2155	2023.6.30
1500	水産研究部	<p>【シロアマダイの種苗生産技術開発を実施中！】 (2023. 4. 14発信)</p> <p>シロアマダイは幻の魚として単価が高く、資源増大の要望が大きい魚です。当研究部では有望な栽培対象魚種と捉え、地元漁業者と連携して成熟親魚の入手にチャレンジしています。</p> <p>シロアマダイは生息水深が深く、産卵可能でかつ生きた状態で入手することが極めて困難なため、雄は漁獲当日の鮮魚から凍結精子を試験的に作成して受精時に使用できるか活力などを測定しています。しかし、雌は生きていなければ採卵できないため、活魚入手の体制構築が大きな課題です。</p>	 <p>針の飲み込みや深場からの漁獲で横転・脱腸してしまったシロアマダイ</p> <p>1尾だけ活魚でとれた雌親魚から採卵している様子</p>	水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2023.4.30
1495	水産研究部	<p>【モジャコ(ブリ稚魚)資源量を推測するため流れ藻付着生物調査を実施中！】 (2023. 4. 6発信)</p> <p>ブリ養殖用の種苗として、ブリの稚魚を採捕する「モジャコ漁」が解禁されました。水産研究部では調査船「豊洋」で、海面に漂う流れ藻を採取し、流れ藻に集まるモジャコ等の付着状況を調査し、その結果を速報で漁業者に提供しています。</p>		水産研究部 資源増殖チーム	0972-32-2155	2023.4.30

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点

(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1493	水産研究部	<p>【魚市場調査を継続中！】 (2023. 4. 3発信)</p> <p>当研究部では、臼杵、津久見、佐伯、鶴見の魚市場において、マダイ、ヒラメ、トラフグなど10魚種について、体長の測定や放流魚であるかを確認しています。調査の結果からは、年齢組成や放流効果を把握することができ、今後の水産資源の管理や保護に役立てていきます。</p>	 <p>体長測定等の様子</p>	水産研究部 資源増殖チーム 企画指導担当	0972-32- 2155	2023.4.30

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点 (合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限												
⑨北部水産グループ (計40件)																		
1668	北部水産グループ	<p>【貝毒被害を防止するためにアサリ出荷前検査を実施中】 (2024. 3. 14発信)</p> <p>貝毒被害を防止するため、当グループでは貝毒原因プランクトンのモニタリングと併せて、漁業者が漁獲したアサリの出荷前検査を行っています。この検査で安全性を確認し、漁業者は安全・安心なアサリを出荷しています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.3.31												
1667	北部水産グループ	<p>【県内の内水面漁協が稚アユを放流】 (2024. 3. 13発信)</p> <p>県内の内水面漁協では、アユの増殖を目的に稚魚を放流しています。当グループでは放流効果調査等を行っています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>放流尾数</th> <th>(サイズ)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日田漁協</td> <td>3/11～</td> <td>85万尾 (6cm)</td> </tr> <tr> <td>大分川漁協</td> <td>3/20～</td> <td>16万尾 (10cm)</td> </tr> <tr> <td>大野川漁協</td> <td>3/22～</td> <td>27万尾 (10cm)</td> </tr> </tbody> </table>		放流尾数	(サイズ)	日田漁協	3/11～	85万尾 (6cm)	大分川漁協	3/20～	16万尾 (10cm)	大野川漁協	3/22～	27万尾 (10cm)	 <p>日田漁協の放流状況</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.3.31
	放流尾数	(サイズ)																
日田漁協	3/11～	85万尾 (6cm)																
大分川漁協	3/20～	16万尾 (10cm)																
大野川漁協	3/22～	27万尾 (10cm)																
1661	北部水産グループ	<p>【1年に1日だけの寒ヒジギ漁が行われました】 (2024. 2. 29発信)</p> <p>「1年で1日しか収穫されない幻のヒジギ」として有名になった大分県漁協姫島支店の【寒ヒジギ】の収穫が、1月11日23時～翌12日7時に行われました。同様に国見支店は1月27日、香々地支店は2月13日の1日だけの収穫が行われました。なお、3支店とも今年は生長が悪く、収穫量は例年の半分以上でしした(姫島支店調べ: 250kg (昨年: 690kg))。春の通常収穫時までの回復を期待します。</p>	 <p>香々地支店での天日干し</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.3.31												
1659	北部水産グループ	<p>【姫島における人工種苗クロメを用いた藻場造成試験】 (2024. 2. 20発信)</p> <p>当グループの指導の下、大分県漁協姫島支店潜水組合は、当グループが生産したクロメ種苗(1万本)を括着させた建材ブロック100個を海底に設置する大規模な藻場造成を2月1日に行いました。なお、2月7日にはクロメ種苗(200本)が括着した木片をボルトで固定したコンクリート製魚礁も海底に設置しました。今後、藻場回復の一助となることが期待されます。</p>	 <p>食害防除カゴで囲ったクロメ種苗(建材ブロック)</p> <p>コンクリート製魚礁に固定したクロメ種苗</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.3.31												
1639	北部水産グループ	<p>【人工種苗ヒジギの生育順調】 (2023. 12. 27発信)</p> <p>国東市の黒津漁港内で中間育成している人工種苗ヒジギが順調に生育しています。当グループで5月29日に採苗し、7月18日に数mmの大きさで中間育成を開始したヒジギの状況を確認したところ、12月18日時点で主枝長は平均6cm、最大で18cmに生長していました(日齢203日)。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.1.31												
1638	北部水産グループ	<p>【ノリの収穫はじまる】 (2023. 12. 27発信)</p> <p>中津市地先で養殖されているノリの収穫が12月13日から始まりました。ノリは平均14cmに生長(長いもので18cm)しており、病害もなく色も良好です。寒風の中、2月下旬まで作業が続く、本県周防灘地先の冬の風物詩です。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.1.31												
1637	北部水産グループ	<p>【養殖オゴノリの生育順調】 (2023. 12. 27発信)</p> <p>宇佐市地先で現地養殖試験を実施しているオゴノリが順調に生育しています。当グループで5月31日に採苗し、7月14日に平均4cm(主枝長)で現地養殖を開始したオゴノリの状況を確認したところ、12月11日時点で平均14cm、最大で30cmに生長していました(日齢196日)。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.1.31												
1636	北部水産グループ	<p>【ヒジギ養殖はじまりました】 (2023. 12. 27発信)</p> <p>本県瀬戸内海沿海の3地区(富来、国東、別府地先)で、天然ヒジギを養殖ロープに挟み込んだ養殖が11月7日から順次始まりました。3地区の養殖規模は、養殖ロープでのべ6,730mです。収穫は来年5月の予定で、当グループでは収穫量向上技術などの養殖指導を行っています。</p>	 <p>養殖ロープに挟み込まれたヒジギ</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2024.1.31												

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点

(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1617	北部水産グループ	<p>【佐伯市蒲江地先にてテングサの藻場造成】 (2023. 11. 22発信)</p> <p>蒲江産テングサは大分県漁協のテングサ入札会で品質が良いと高く評価されています。さらなる増殖を目指して、テングサ藻場の造成試験を行いました。主枝長6cmに生長した人工種苗400本（日齢717日）を括着させた建材ブロック8個を、食害防除カゴで覆い、施肥剤を付けて、11月15日に佐伯市蒲江屋形島地先の海底（水深：5m）に設置しました。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.12.31
1610	北部水産グループ	<p>【海藻カジメの種苗生産を開始】 (2023. 11. 10発信)</p> <p>津久見市無垢島で採取したカジメ（地方名：くろめ）母藻を用いた種苗生産を10月26日に実施しました。288万個の遊走子（タネ）を採取し、現在シャーレで育成中で、その後陸上水槽にてさらに生長させます。葉長10cmに生長する来年初夏には、建材ブロックに括着させた後、海に設置して藻場造成します。</p>	 <p>カジメ母藻</p> <p>人工種苗(0.1mm)</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.11.30
1604	北部水産グループ	<p>【大野川にてアユの流下仔魚調査を実施！】 (2023. 10. 31発信)</p> <p>大野川では10月中旬からアユの産卵が始まっています。産卵された卵は2～3週間後の夕方～夜間にふ化し、ふ化した仔アユは川を下って海に向かいます。当グループはおおよそ1週間毎に白滝橋下流で17～24時の間、1時間毎にプランクトンネットで流下仔アユを採集し調査をしています。本調査は12月下旬まで実施し、大野川でのアユの産卵・ふ化・流下仔魚の実態を把握します。</p>	 <p>プランクトンネットでアユ流下仔魚を採取中</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.11.30
1601	北部水産グループ	<p>【ノリ養殖 始まりました】 (2023. 10. 31発信)</p> <p>本県豊前海の冬の風物詩『ノリ養殖』が宇佐市（2経営体）と中津市（3経営体）で始まりました。ノリ網を束ねて海面に張り、ノリの種（糸状体）が入り込んだカキ殻をぶら下げてノリ網に種付けする採苗作業が10月中旬から行われており、初摘採は12月上旬の予定です。当グループでは、ノリ網の芽つきや育成状況を確認し、指導しています。</p>	 <p>宇佐地先での作業風景</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.11.30
1600	北部水産グループ	<p>【日田漁協がヤマメを放流】 (2023. 10. 26発信)</p> <p>日田漁協は10月23日に、上野川、赤石川、小野川、高瀬川および天瀬赤岩川に1歳魚のヤマメ1万尾（体重：約6g）を放流しました。ヤマメは水のきれいな渓流域に生息し溪流の女王とも呼ばれ、体の側面に小判型の斑点（パマーク）が並んでいるのが特徴です。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.11.30
1597	北部水産グループ	<p>【アユ産卵場調査を実施中！】 (2023. 10. 23発信)</p> <p>大分川、大野川、山国川におけるアユの産卵環境および産卵状況調査を10月16日から実施しています。大分川は明礮橋下流や七瀬川で、大野川は白滝橋下流で、山国川は中津市恒久橋周辺で、11月下旬まで実施します。調査結果は各漁協に報告し、産卵親魚の保護や産卵場造成に活用されます。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.11.30
1596	北部水産グループ	<p>【大野川漁協がアマゴを放流しました】 (2023. 10. 23発信)</p> <p>大野川漁協は10月16～17日、竹田市中尾橋上流、久住川、奥嶽川および緒方川に1歳魚のアマゴ1.1万尾（体重：約40g）を放流しました。アマゴはヤマメとあわせて地方名でエノハとも呼ばれ、体側に朱色の斑点が点在する綺麗な渓流魚です。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.11.30
1587	北部水産グループ	<p>【貝毒被害を防止するためにマガキの検査を実施】 (2023. 10. 12発信)</p> <p>海水温が低下してきて、マガキが肉厚濃厚になってきました。本県瀬戸内海域には、マガキの産地（中津、国東、杵築、日出）が多数あります。安全・安心なマガキを出荷するために当グループでは、養殖場の貝毒原因プランクトン調査やマガキの安全性を判別する検査を行っています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.10.31

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点 (合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1578	北部水産グループ	<p>【記録的な大雨に耐えたアユ】 (2023. 9. 20発信)</p> <p>7月の記録的な大雨の影響を調べるため、9月12日に日田漁協管内の三隈川、玖珠川でアユの生息状況調査を実施しました。両河川ともアユが藻類を食べた痕跡（ハミアト）を多く確認しました。また、元氣よく泳いでいるアユも多数視認しました。大雨の影響は少なく、平年並みの漁獲が期待できそうです。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.10.31
1577	北部水産グループ	<p>【人工種苗を用いたテングサの藻場造成】 (2023. 9. 20発信)</p> <p>国東半島沿岸のテングサの復活を目指して、人工種苗を用いてテングサ藻場の造成を行いました。主枝長6cmに生長した人工種苗400本を括着させた建材ブロック8個を、食害防除のカゴで覆い、施肥剤を付けて、9月13日に国東市国東町重藤地先の海底に設置しました。6月にも国東町富来地先に同様の方法で種苗400本を設置しています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.10.31
1568	北部水産グループ	<p>【スッポンの里で稚ガメ 続々誕生！】 (2023. 9. 6発信)</p> <p>スッポン養殖が盛んな宇佐市安心院町の養殖場では、6月上旬からふ化が始まっています。5～8月に産卵された卵をふ化器に入れ、40～60日かけてふ化させた稚ガメ(10g)が続々と誕生しています。今年は産卵が不調で、例年の3割減となる1.5～1.6万尾の誕生の見込みです。温泉を利用した養殖により来年の冬には出荷サイズの800gに成長します。</p>	 <p>9月5日にふ化した稚ガメ</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.9.30
1550	北部水産グループ	<p>【人工種苗クロメの藻場造成準備】 (2023. 8. 1発信)</p> <p>近年、姫島周辺で魚類の食害による藻場の減少が危惧されており、県漁協姫島支店は、昨年度に続き藻場の回復を目指した大規模藻場造成に取り組んでいます。7月27日に、クロメ人工種苗3,200本を建材ブロック32個に括着させる作業が行われ、当グループから技術支援しました。人工種苗は昨秋姫島産母藻から採苗し、葉長4～18cmに生長したものです。1か月程度でブロックに括着後、姫島周辺に設置します。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.8.31
1546	北部水産グループ	<p>【人工種苗ヒジキの海面育苗開始】 (2023. 7. 25発信)</p> <p>本県沿海で採取した母藻と人工種苗由来の母藻を用い、ヒジキの採卵を行いました。5～7月に586万粒の受精卵を得て、建材ブロック、ロープ、不織布に播種し、生長した人工種苗(葉長0.6～3.2mm)が括着した建材ブロックの一部を7月18日に国東町の黒津漁港内に設置しました。残りは8月下旬までに設置します。なお、前年に収穫した養殖ロープを再利用するため、建材ブロックに巻き付けて設置しました。</p>	 <p>建材ブロックに括着した人工種苗と漁港内での海面育苗</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.8.31
1541	北部水産グループ	<p>【漁獲されたアユのふ化時期の推定】 (2023. 7. 12発信)</p> <p>海から遡上するアユの尾数は毎年変動します。遡上量は、秋に仔アユが海に下った直後の餌(動物プランクトン)の量に左右されますが、餌の量は人間にはコントロールできません。遡上量の増加には、流下仔アユの数を増やすことが重要です。当グループでは産卵親魚の保護に取り組む漁協のため、大分川および大野川水系で漁獲されたアユのふ化時期を推定し、前年秋の流下仔アユのふ化時期と比較して、漁獲に繋がるアユのふ化時期を解明しています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.7.31
1540	北部水産グループ	<p>【人工種苗カジメを提供】 (2023. 7. 12発信)</p> <p>海藻くろめ(正式名称: カジメ)の産地である大分県漁協佐賀関、津久見、保戸島支店では減少したカジメ資源の復活のため増殖活動に取り組んでいます。当グループは3支店の要望を受けて、葉長5～11cmの人工種苗カジメ5,000本を提供しました。自然素材の輪ゴムで建材ブロック等に固定し、括着させるため佐賀関支店の陸上水槽内で1か月程度養生します。8月には各地先で藻場造成が行われます。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.7.31

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点

(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1533	北部水産グループ	<p>【漁獲アユの由来判別を実施中】 (2023. 6. 26発信)</p> <p>本県の内水面漁協では春に稚アユを放流し、6月にはアユ釣りが行われています。天然アユと放流アユは、鱗の枚数で区別できることがこれまでも報告されています。当グループでは、天然アユの漁獲動向や人工種苗の放流効果を把握するため、日田、大分川および大野川の3漁協で漁獲されたアユの背びれ基部から側線までの鱗を計数し、由来判別を行っています。調査結果は速やかに漁協に報告し、アユ資源を増大させる取組に役立ててもらっています。</p>	 <p>漁獲したアユ</p>  <p>背びれ 鱗枚数計数 側線</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.7.31
1532	北部水産グループ	<p>【養殖用ヒジキの天然採苗】 (2023. 6. 23発信)</p> <p>ヒジキ養殖に用いられる種苗は、ロープに挟み込むため全長10cm以上のヒジキが必要です。岩礁域に自生するヒジキを採取すれば、資源の枯渇を招くため、生産者からはヒジキ群落付近に建材ブロックを設置し、天然採苗に挑戦しています。11月には、養殖に使用できるサイズに生長します。当グループは生産者らの試みに技術支援を行っています。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.7.31
1527	北部水産グループ	<p>【日田市内の河川におけるアユ生息状況調査】 (2023. 6. 20発信)</p> <p>日田市内水面利活用推進協議会（日田漁協、日田市、国交省筑後川河川事務所など）が、6月16日に日田市内の大山川、高瀬川など5か所でアユの生息状況等に関するフィールド調査を実施したので、当グループも協力しました。各河川ともアユが藻類を食べた痕跡（ハミアト）を多く確認し、元気よく泳いでいるアユも多数視認しました。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.7.31
1526	北部水産グループ	<p>【人工種苗ヒジキの生産を開始】 (2023. 6. 20発信)</p> <p>本県沿海3地区で採取したヒジキ母藻を用いた種苗生産を5月29日から実施しています。21回の採卵で300万粒の受精卵をピニロン製ロープ等に播種しました。人工種苗が活着したロープ等は7月上旬から順次、漁港内等での海面育苗に移行させます。11月には養殖ロープ30m相当（昨年度：22m）にあたる種苗数の確保を目指します。</p>	 <p>受精卵とロープに活着したヒジキ</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.7.31
1525	北部水産グループ	<p>【人工種苗由来の養殖ヒジキ収穫】 (2023. 6. 13発信)</p> <p>2022年5月に種苗生産したヒジキを用いて、12月28日から宇佐市長洲の干潟で支柱式の養殖試験を行っていました（養殖ロープ9.4m分(種苗数943本)）。6月9日に湿重量で59.7kg（mあたり6.3kg）を収穫しました（養殖期間164日）。今年度は、人工種苗ヒジキの更なる量産化に取り組みます。</p>	 <p>研究室に持ち帰り収穫、測定。 成熟母藻は、今年度の種苗生産に使用予定。</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.6.30
1523	北部水産グループ	<p>【早期採卵マガキ人工種苗を用いた養殖試験を開始！】 (2023. 6. 13発信)</p> <p>中津市小祝漁港にあるフラブシー（稚貝中間育成装置）でマガキ人工種苗の飼育を開始しました。この種苗は年内出荷を可能にするため、通常よりも2~3ヶ月早い時期に採卵し生産したものです。フラブシーで一ヶ月程度飼育し、ある程度の大きさに成長させた後、小祝沖での本養殖試験に移ります。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2023.6.30
1522	北部水産グループ	<p>【豊前海アサリの資源動向モニタリングを実施しました】 (2023. 6. 8発信)</p> <p>豊前海のアサリについては資源回復が望まれているところで、資源量を把握するため、中津市、宇佐市、豊後高田市の10地区の干潟において、6月の大潮干潮時に坪刈りによる調査（一定面積あたりのアサリ数量等調査）を行いました。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2023.6.30
1521	北部水産グループ	<p>【キジハタの種苗生産を行うため、採卵を行いました！】 (2023. 6. 6発信)</p> <p>栽培漁業対象種として有望視されているキジハタの種苗生産技術の開発に取り組んでいます。成熟した親魚から採卵・採精を行い、人工授精しました。今回、約160万粒を採卵し、100万粒の受精卵を得ることができました。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2023.6.30

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点



(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限																					
1520	北部水産グループ	<p>【オゴノリ完全養殖技術の確立に向けて！】 (2023. 6. 5発信)</p> <p>寒天の原料であるオゴノリの養殖技術の確立に向けて昨年6月から、宇佐市和間でノリ網を使った「天然採苗」と干潟に自生している母藻から生産した「人工種苗」を用いた現地養殖試験を実施しており、5月31日に成熟確認と収穫を行いました。今年度は人工種苗由来の成熟個体を母藻に種苗生産を実施し、完全養殖技術の確立に取り組みます。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.6.30																					
1516	北部水産グループ	<p>【遮光カゴ網を用いた外来魚捕獲試験を実施中！】 (2023. 5. 24発信)</p> <p>大野川漁協が取り組んでいるブルーギル等の外来魚捕獲事業において、当グループは昨年度に続き、簡易かつ安価で効率的に捕獲できるカゴ網を提供し、その捕獲効果を調査しています。</p>	 捕獲されたブルーギル	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.6.30																					
1515	北部水産グループ	<p>【赤潮・貝毒調査 実施中！】 (2023. 5. 24発信)</p> <p>今年度も、5月から毎月3回、本県瀬戸内海域の16地点（貝毒5地点）において、海中の植物プランクトンの出現をモニタリングしています。 なお、昨年度も本県瀬戸内海域において赤潮による漁業被害は発生しておりません。</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.6.30																					
1514	北部水産グループ	<p>【有用魚類の卵・稚仔魚の出現状況把握調査 実施中！】 (2023. 5. 24発信)</p> <p>今年度も、4～9月に毎月1回、本県周防灘海域の6地点において、魚類の卵稚仔出現量をモニタリングしています。 なお、令和4年度のカタクチイワシの卵・稚仔魚の出現量は、平年に比べ少なかったです。</p>		北部水産グループ 資源増殖チーム	0978-22-2405	2023.6.30																					
1513	北部水産グループ	<p>【管内の内水面漁協 アユ漁解禁！】 (2023. 5. 24発信)</p> <p>管内6漁協のアユ漁が解禁します。当グループは、アユの生息状況調査や漁場の付着藻類調査等を行っています。</p> <p>5月20日～ 日田漁協、玖珠郡漁協 6月 1日～ 大分川漁協、大野川漁協 6月10日～ 山国川漁協 6月24日～ 津江漁協</p>		北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.6.30																					
1507	北部水産グループ	<p>【養殖ヒジキの収穫 始まりました】 (2023. 5. 2発信)</p> <p>県内各地先で養殖されているヒジキの収穫が始まりました。宇佐市長洲地先の干潟で養殖されたヒジキは、シャキシャキとした歯ごたえが特徴なことから『筋肉（マッスル）ひじき』として売り出されています。当グループは、各地区の収穫状況調査を行っています。</p> <p>養殖地区 収穫予定日 宇佐支店 5月1～2日 くにしき支店 5月中～下旬 別府支店 同上</p>	 宇佐市長洲地先で養殖されたヒジキ	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.5.31																					
1498	北部水産グループ	<p>【内水面漁協が稚アユを放流しています！】 (2023. 4. 11発信)</p> <p>当グループ管内の内水面漁協では、アユの増殖を目的にアユの稚魚を放流しています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>山国川漁協</th> <th>4/17～</th> <th>15万尾 (10cm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>駅館川漁協</td> <td>4/13～</td> <td>3.6万尾 (7cm)</td> </tr> <tr> <td>宇佐山郷淡水漁協</td> <td>4/14</td> <td>0.8万尾 (8cm)</td> </tr> <tr> <td>玖珠郡漁協</td> <td>未定</td> <td></td> </tr> <tr> <td>津江漁協</td> <td>4月上旬</td> <td>4.3万尾 (5cm)</td> </tr> <tr> <td>鶴崎漁協</td> <td>4/5～</td> <td>0.6万尾 (8cm)</td> </tr> <tr> <td>臼杵河川</td> <td>未定</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	山国川漁協	4/17～	15万尾 (10cm)	駅館川漁協	4/13～	3.6万尾 (7cm)	宇佐山郷淡水漁協	4/14	0.8万尾 (8cm)	玖珠郡漁協	未定		津江漁協	4月上旬	4.3万尾 (5cm)	鶴崎漁協	4/5～	0.6万尾 (8cm)	臼杵河川	未定		 昨年の放流状況	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22-2405	2023.4.30
山国川漁協	4/17～	15万尾 (10cm)																									
駅館川漁協	4/13～	3.6万尾 (7cm)																									
宇佐山郷淡水漁協	4/14	0.8万尾 (8cm)																									
玖珠郡漁協	未定																										
津江漁協	4月上旬	4.3万尾 (5cm)																									
鶴崎漁協	4/5～	0.6万尾 (8cm)																									
臼杵河川	未定																										

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点

(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
1496	北部水産グループ	<p>【ヒジキ漁が始まりました！】 (2023. 4. 6発信)</p> <p>国東半島～別府湾沿海の大分県漁協各支店では、天然ヒジキの採取が始まりました。 当グループはヒジキ増殖の取組に協力しています。</p> <p>採取期間 香々地支店 4月 1～21日 国見支店 4月 4～21日 姫島支店 4月 6～10日、4月20～22日 くにさき支店 4月 7～21日 武蔵支店 4月 5～21日 安岐支店 4月19日～5月 6日 杵築支店 3月 5日～4月30日 日出支店 4月 1日～5月15日 別府支店 4月 9日～6月19日</p>	 <p>香々地支店の 漁模様と 天日干しヒジキ</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22- 2405	2023.4.30
1494	北部水産グループ	<p>【養殖ヒジキ生育 順調！】 (2023. 4. 4発信)</p> <p>宇佐市長洲、国東市富来浦・治郎丸および別府市亀川地先で昨年11月から始まった養殖ヒジキは、順調に生育しています。例年より色・つや・生長が良好で、5月上旬に収穫予定です。当グループは養殖の技術支援を行っています。</p>	 <p>国東市治郎丸地先の 養殖ヒジキ</p>	北部水産グループ 養殖環境チーム	0978-22- 2405	2023.4.30

農林水産研究タイムリー情報

2024年4月30日時点

(合計180件)

整理番号	所属名	情報内容	画像、図等	問合せ先	電話番号	掲載期限
------	-----	------	-------	------	------	------

⑩農林水産研究指導センター（計0件）

	センター本部					
--	--------	--	--	--	--	--